

令和6年度第5回下野市行政改革推進委員会 議事録

日時 令和7年1月31日(金) 午前9時00分から午前10時30分
出席委員 中村祐司会長、柳澤正弘委員、川俣一由委員、小林政則委員、
太田芳一委員、高橋志津子委員、中西稔委員、野田善一委員
欠席委員 金田幸子委員、平井勲委員
市側出席者 【第一部】伊澤(巳)総合政策部長、川俣総合政策課長、早乙女課長補佐、津田副
主幹
【第二部】坂村市長、江連副市長、石崎教育長、倉井総務部長、直井市民生活部
長、荻原健康福祉部長、伊澤(仁)産業振興部長、倉持都市建設部長、濱
野会計管理者、五月女議会事務局長、高山教育次長
公開・非公開の別 公開
傍聴者 2名
議事録作成日 令和7年1月31日

○次第

【第一部】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
(1) 第4回下野市行政改革推進委員会議事録の確認
(2) 令和6年度下野市行政評価市民評価報告書(案)の確定
(3) その他
- 4 閉会

【第二部】

- 1 開会
- 2 令和6年度下野市行政評価市民評価報告書の提出
- 3 市長あいさつ
- 4 市長及び市執行部との意見交換
- 5 閉会

【第一部】

○開会

川俣課長：ただ今より令和6年度第5回下野市行政改革推進委員会を開会します。

○会長あいさつ

中村会長：皆さんおはようございます。私たちにとって最終回、第5回を迎えることができました。このような形で、市長に直接お渡しする報告書ができて、現段階では案になっていますが、これをこの後確認し、胸を張って皆さんのお知恵を市長に手渡したいと思っています。まだこの後しっかり気を引き締めてやりたいと思いますが、ここまで来ることができて大変うれしいというか、名残惜しい気持ちです。晴れの舞台という言い過ぎかもしれませんが、市長・副市長はじめ中枢の方が勢ぞろいして、第二部で時間は少し限られるかもしれませんが、40分程度意見交換ができます。ぜひこの機会に、ご自分の思うところをいい意味で直言していただいて、我々の痕跡の流れをつなげていければと個人的には思っております。どうかよろしく願いいたします。

川俣課長：ありがとうございました。それでは議事に入りたいと思います。行政改革推進委員会条例第6条により、以降の進行につきましては中村会長をお願いいたします。

中村会長：それでははじめに会議成立確認と、会議録署名についてお諮りします。本日の欠席委員は2名ですね。委員数10名のうち、過半数以上の委員が出席していますので、下野市行政改革推進委員会条例第6条第2項の規定により会議は成立となります。

それから、議事に入る前に、会議の公開についてお諮りします。本日傍聴希望者には既に入らせていただいておりますが、会議を公開することで異議ないでしょうか。

(異議なし)

では、会議を公開させていただきます。

次に、今回の会議録署名人委員を野田委員と柳澤委員をお願いいたします。署名人の方は、後日事務局が作成した本日分の会議録に署名していただくこととなりますので、よろしくをお願いいたします。

(1) 第4回議事録の確認について

中村会長：第4回議事録の確認について、事務局より説明をお願いします。

【事務局より修正なしと説明】

中村会長：修正なしということでした。この場で各委員より改めて修正意見がなければ、この内容で確定したいと思いますですが、よろしいでしょうか。

(意見なし)

中村会長：はい、それでは第4回議事録は確定ということで、ありがとうございます。

(2) 市民評価報告書(案)の確定

中村会長：それでは、市民評価報告書(案)の確定について、事務局より説明をお願いします。

【事務局より説明】

中村会長：事務局から説明がありました。委員の方々から改めてご意見はありますでしょうか。

(意見なし)

中村会長：ありがとうございます。それでは、市民評価報告書の(案)をとって、この内容で確定ということになりました。正直言うとこれで終わったという感じですが、第二部はあまりかしこまらず伸び伸びと行きましょう。

(3) その他

中村会長：次にその他について、事務局からお願いします。

早乙女補佐：第4回の委員報酬は、2/15に支払予定です。議事録は今日の会議が最後のため、郵送でみなさまに確認していただき、確定とさせていただきたいと思います。署名については、郵送または自宅に伺っていただきたいと思います。

中村会長：議事録は郵送で確定させるということでした。署名人の野田委員と柳澤委員については、別途対応ということで、よろしくをお願いいたします。

それでは、第一部は無事終了となります。市民評価報告書が確定したことを喜びたいと思います。進行を事務局にお返しします。

川俣課長：ありがとうございました。この後第二部として、市民評価報告書の提出と意見交換となりますけれども、9時半から第二部を行いますので、それまではいったん休憩と

させていただきます。

【第二部】

川俣課長：まず初めに、行政改革推進委員会から市執行部に対して、令和6年度下野市行政評価市民評価報告書の提出を行います。中村会長と坂村市長は中央まで御移動ください。

【報告書を市長に手渡し】

川俣課長：ありがとうございます。会長、市長は、自席にお戻りください。
続きまして、市長の坂村よりご挨拶申し上げます。

坂村市長：ただいま中村会長より令和6年度下野市行政評価市民評価報告書をいただきました。長い時間をかけて議論いただき、報告書を作成いただきましたこと、心から感謝いたします。ありがとうございます。いただいたご意見を真摯に受け止めて、行政に反映させていきたいと思っております。下野市では、現在第三次総合計画の策定に向けた検討を進めています。また、来年には市制20周年を控えております。次の10年、またその先を見据えながら、市民協働によるまちづくりを進めるためにも、これからの意見交換をぜひ有意義な時間にできればと思っております。

川俣課長：それでは、これより委員のみなさまとの意見交換に入りたいと思っております。進行は中村会長にお願いしたいと思います。中村会長よろしく申し上げます。

中村会長：このような機会をいただき、大変ありがたく思っています。市長・副市長はじめ市の執行部の方が並んでくださいます。我々と意見交換をするということで、厳粛というか緊張すると思っておりますが、私個人としては報告書を受け止め、尊重してくださるということで、役割のほとんどを終えたというふうに思っていますので、ぜひいい意味でリラックスして直言して、やりとりができる時間にしたいと思います。これだけのメンバーが揃うのは他の行政機関でも珍しく、本当にありがたく思っています。時間の制約はありますが、今から40分程度で、委員のみなさまからご意見・ご質問をいただければと思います。いかがでしょうか。

中西委員：下野市も少子高齢化する中で、二つ伺いたいことがあります。一つは、地域の活性化をどうするのかという問題と、もう一つは良好な行政サービスを提供するための財源をどう確保するのかということです。地域の活性化については、行政改革推進委員会の中で自治会長事業についての議論もありました。私は36年前に越してきましたが、その頃は運動会や懇親会もありました。最近新しく越してきた人は自治会をすぐやめてしまいます。また、私を含めた高齢者は自治会の中での、例えば広報を配るとか負担ばかりが大きくて、役員を受けられないということが結構あります。コミュニティの根幹になるような自治会の活動がどんどん崩壊してきていますが、それに関して、費用負担の問題だけではなく、根本的にどういう形で対応していくのかをお伺いしたいと思います。

もう一つは財源の問題ですが、下野市は素晴らしいまちだと思いますし、新しい人が住んできていますが、公共サービスをどうしていくのか。身近な例でいえば、児童館にしても施設が古い、子どもが使うのにトイレが和式のままなどがあります。ふるさと納税では下野市が流出がダントツに多い状況です。新しい人に住んでもらうためには、まちの環境だけではなく行政サービス全体を含めて魅力的であることが、移住・定住していただくためには非常に重要だと思いますが、市長含めてご意見をいただければと思います。

中村会長：地域の活力を維持するための自治会活動、公共施設、公共サービスの財源をどうす

るかという2点についてお願いします。

坂村市長：1点目のコミュニティについて、私も小さいころから自治会にお世話になっていました。キャンプ、運動会など自治会独自で地域の子どものための楽しい行事がたくさんありました。子どもの頃の楽しかった思い出のおかげで、いずれ下野市に戻りたいという気持ちになりました。高齢の方が自治会活動の中心になっていて、準備が大変になっているので、どうするか議論して今後の方向性を決めなければならないと思っています。例えばですが、一つ考えられるのは今行っていることを市としてどのように行っていくのか。自治会の負担を減らして、居場所づくりなどを市としてできないか、あるいは区域の見直しもどうしていくか、根本的な議論をして決めていく必要があると考えています。

財源の問題、ふるさと納税については、今力を入れており、期待に応えられる取組を進めているので、引き続きご指導いただければと思います。財源ですけれども、人と企業に選ばれるまちづくりとして、昨年4月に調整区域でも住宅が建てられる仕組みを利用し、その区域を見直しました。その結果、分譲地がまち中で増えていると思います。ただ、むやみに増やすと逆に、インフラ整備などが必要になるので、順番に対応していきたいと考えています。とにかく下野市がこれだけ住みやすいまちで、住みたいという方が多くいらっしゃるの、むやみに行うのではなく、段階を踏んで移住につなげてきたいと考えています。企業については、しもつけ産業団地も売上の見込みで、その先の整備も考えています。今、栃木県内はかなり注目されていますので、この機にいろいろな企業に選ばれるように、整備を積極的に進めていきたいと思っています。また、私の公約の中で市役所周辺の整備、都市核の形成も優先的に進めたいと思っています。どんなものかは検討中ですが、例えば商業的なコンテンツであったり、公共施設も含めて市街化区域の拡大など、時代には逆行しているかもしれませんが、下野市はそれだけポテンシャルがあると思っています。これは、来年20周年の時に、ぜひ皆様に計画をお伝えできればと思っています。

財源等につきましても、下野市の様々なポテンシャルを生かしながら確保していきたいと思っています。

中村会長：大変丁寧にありがとうございました。ほかの委員の方、いかがでしょうか。

高橋委員：委員を2年務めてきて、事業はハードと人に関わることに分けられると思いました。ハード面は、最近下水管の事故もありましたが、今年の市民評価で下水管の耐震化事業が出ており、今年は道の駅の修繕なども出ていました。これらは行うことと結果が直接つながるので、予算の問題はあると思いますが、早めに手当てしていくことで、かかる費用が少なく、事故も防げるのではと思いますので、そのようなことは迷いなく進めた方が、地域の底力になるのではと感じております。

今年の道の駅について、修繕のほかに新しいことを、という計画でしたが、道の駅は各地に増えているので、大規模化のみを狙わずに、飽きずに来てもらえる工夫をすればよいのではと思いました。例えば天平の丘にある坊ちゃん列車を毎週末走らせれば、子ども連れに喜んできてもらえるでしょうし、ドッグランは設備投資が少なく済むので、そのようなものと組み合わせて、家族で楽しめるようなものがあれば、食事や買い物もしてもらえるとと思います。

東の飛鳥というとても大きな財産が有るので、自治医大をプラスして下野市としての性格、イメージを出すと、より印象が良くなり、ふるさと納税の増加にもつながるのではないかと思います。

子どもや教育など人の問題は答えがすぐ出ないので、関わる方も大変だと思いますが、関わる方の人材育成が大切だと思います。これからはいい人材の奪い合いの時代になると思うので、その方々がより気持ちよく安心して働けるような職場環境を考えて欲しいと思います。

中村会長：施設の長寿命化、市民に親しまれる道の駅の在り方、人に対する事業の3つについて、お願いします。

坂村市長：本市のインフラは、修繕計画に基づいて順次改修しています。限られた財源の中ではありますが、国の補助も活用し、今回の八潮市の事故を機に見直し・検証を行います。

道の駅については、来場者は多いですが、私も家族の居場所が欲しいと考えています。買い物をして楽しめるというコンセプトで拡大をしたいと考えており、単なる拡大ではなく、防災の面も拡充したいと考えています。下野市は安全なまちですので、首都圏に何かあった場合の避難先・受け入れ先として考えることも必要で、防災機能を付加することで、国からの補助も受けられますので、それを基に先ほどの拡充も考えられます。せっかくたくさんの方に来ていただいているので、近隣の道の駅整備の計画もありますが、引き続き多くの方に来ていただけるよう努力したいと考えています。

「東の飛鳥」もさらに全国に広がるようPRしたいと思います。世界遺産登録への推薦が決まった奈良県明日香村との交流を進め、先進的な取組を参考にしたいと考えています。

自治医大とは昨年6月に包括連携協定を結び、いろいろなことが始まっています。下野市だから受けられる医療サービスを徹底的に追及し、自治医大と協力して、救急体制など、今年から議論を始めていきます。医療だけでなく、例えばDXなども含まれているので、今後に期待していただければと思います。また去年は自治医大の学生が市役所に来て各部署を見学し、良い交流ができました。学生さんは隠れた人材だと思いますので、今年も続けて、まちづくりの面などで協力いただける体制を作りたいと考えています。

人との関わりは難しく、まだまだ至らないところが多いと思いますが、私としては地域包括ケアや居場所づくりなど、機運は高まっていますので、一つひとつ丁寧に確実に進めていきたいと思っています。また、それらに携わる方への支援、知識やスキルアップの研修なども考えたいと思っています。

中村会長：ほかの方はいかがですか。

川俣委員：庁舎西側の県道の工事が進んでいないようなので、進捗を聞きたいです。買収が何パーセントくらい進んでいるのかお聞きしたい。関根井の方が伸びてくると、こっちは要らないといわれる可能性も出てくる。買収をしたところは県に道路改良をお願いして、地権者にこの道は抜くというアピールも必要ではないかと思います。その道が小山のゴルフ場の方に抜ける計画はどうなったのでしょうか。

江連副市長：私も含めて心配していますが、石橋にスマートICができ、その道を南下すると、市役所西側の道につながるの、市としては重要な道だと考えています。県道として整備しており、第一区間は市役所の北側までですが、当然昔の国分寺庁舎のところまでつなげていく計画になっています。第一区間はここまでとして県が進めていますが、用地取得も進んで参りました。ただ、ご協力をいただけない方が何人かいることは事実です。県で用地交渉をしており、市も、私も含めて地権者の方に直接お会いして話をしており、引き続き県市で一丸となっていきたいと考えています。ただ、残念ながら現時点では意見の隔たりは大きい状況です。先ほど市長から話があった市役所周辺を整備するうえでもなくてはならない道路なので、第一の課題として県に強くお願いし、我々としても汗をかいていきたいと思っています。

下野市の南から小山方面、半田橋東側に向けて、小山市が道路を整備したいということは前の小山市長の時から強くお持ちで、両市が協議会を作って実現に向けた取り組みをしています。課題も多く、両市にまたがるため本来なら県道として整備して欲しいと考えており、小山市とともに実現に向けて協力していきたいと思っています。道路整

備は時間がかかりますが、やるべき事業については早急に進めたいと思います。

野田委員：来年、下野市が誕生して20年ということで、向こう10年に向けての中長期的なビジョン、目標は当然掲げるとは思いますが、私はビジョンは、行政的なビジョンと政治上のビジョンに分けられるのではと思います。行政ビジョンは地に足の着いた、身の丈にあった目標。それだけだと個人的には面白くないので、それに加味する、政治的なビジョン、ポリティクス、国民・市民に夢や期待や希望を抱かせるようなビジョンも必要だと思います。各自治体の首長は行政マンであると同時に政治家だと思いますので、政治的なビジョンも具有すべきではないかと思っています。下野市の政治的ビジョンとして、「10万都市の構築」「文化会館の建設」をぜひ掲げて欲しいと思います。文化会館は財源、利用頻度、採算性など課題があるのは分かりますが、それを乗り越えた形でのビジョンの提示も必要だと思いますので、そのことについてご意見を聞かせていただきたいです。

坂村市長：私の意見としてお答えさせていただきます。人口10万都市について、本市は今のところ人口は横ばい・微増ですが、この先は様々な研究機関の評価でも減っていくことは仕方がないと思っています。下野市は魅力があるので、減少を食い止め、移住・定住につながるようあらゆる努力をしたいと思っています。その中でも、市役所周辺の都市核の整備をしっかりやっていきます。文化会館については、総合計画にも示しており、議論をしなければならないと考えています。いつ実施するかということも含めて、これから議論が必要と考えています。都市核の整備、これからのまちづくりを進めるうえで、文化会館についても議論させていただきたいと思っています。政治的ビジョンとしては、個人的には医療にこだわりたいと考えています。計画にはありませんが、私としては世界から注目されるような医療を目指したいと考えています。

太田委員：安心は市の財産です。下野市は災害がなく、いいところに住んでいると思っています。私は下石橋の40戸ほどの集落に住んでいますが、認知症の方が3人くらいここ数年で出ています。一人目の方はしばらく徘徊していましたが、悪化して入院、その後亡くなりました。二人目の方は女性で、一人目同様核家族です。介護する夫は大変だったようですが、ようやく施設が見つかりました。三人目の方は旧家で地域の世話焼きだった男性で、男性がいなくなるたびに近所で探し回り、そのたびに奥さんが見つめてくれた家にお礼に行っていました。その家族は、娘さんと同居していたのですが、ある日突然一家で姿を消してしまいました。また、近所に20年以上引きこもっている40歳くらいの方が80歳くらいの両親と暮らしている家もあります。この間、支援のために訪れる人はありませんでした。核家族が進み、困りごとを抱えても、助けを求めないで、独りで抱え込んでいるのです。高齢化、少子化で、目の前でこのようなことがあり、道路・下水道などのハードインフラだけでなく、このような人を支えるソフトインフラも必要と思っています。個人的な支援には限界があります。今回の評価報告書の中の「地域づくりに向けた支援事業」は共生社会の実現を目指したのですが、重層的支援体制整備事業は少子化、高齢化への対応を狙って社会福祉法の改正により作られたもので、国の補助が3/4と手厚いです。地域のセーフティーネットを作るといえるものです。

本市の「地域づくり支援事業」は重層的支援体制整備事業の一つでその趣旨から距離があります。個人間の市民連携、行政内部での庁内連携、民間、地域の公民連携などの連携体制づくりがセーフティーネットです。法の趣旨から見て、正面から取り組んでいないように見えます。栃木市や宇都宮市など近隣市と比べるとその違いが分かります。安心して暮らしたいと思えば、今進めている移住政策に反し、移住してしまうかもしれません。不登校も引きこもりもアウトリーチが必要です。待っている今のやり方では進みません。他市町村と比べられる時代になっているので、実施事業の改

善、ソフトのインフラづくりにつなげて欲しいと思います。

小林委員：2年間色々と勉強になり、行政としても色々な支援をしていることを改めて感じました。地域共生社会、重層支援など国が進めている事業は、行政だけでは進みませんので、社会福祉協議会という外郭団体として、民間団体として、行政とタイアップして、行政ではできない部分、また市民と福祉の充実に取り組みたいと思っています。

柳澤委員：2年間勉強になりました。例えば今年度の土地管理事業は公売の推進の点で金融機関として、ぜひ役に立てるように、民間企業の連携強化をお願いしたいと思います。企業版ふるさと納税への取組も、金融機関としても先の意見を反映させながら行政に役立てたいと思います。

中村会長：それでは、時間が参りましたので意見交換を終了といたします。進行を事務局にお返しします。

川俣課長：大変ありがとうございました。本日の会議はこれで閉会となります。また、5回に渡り開催させていただきました今年度の委員会は、これで終了となります。委嘱期間はこの3月までですが、年度内の開催はございませんので、2年に渡り委員を務めていただきました皆様に、市長から御礼のご挨拶を申し上げます。

坂村市長：あらためて本日は貴重なご意見をありがとうございました。
私としましては、この度の報告書、ご意見を、貴重なものとして受け止め、今後の行政にしっかりと反映させていきたいと思っています。ここで話したことは、しっかりと責任を持って取り組む所存でございます。皆様におかれましては、2年間、貴重な時間をいただきながら議論いただきましたこと、改めて下野市を代表してお礼を申し上げます。
市の魅力アップの取組はしっかりと進めていきます。その中で、同じように医療、福祉にも力を入れていきます。市役所の中でもまるごと相談窓口などを作って対応しております。横の連携は大切です。これまで相談に来た方はたらい回しになってしまっていたので、一箇所でも相談に対応できるような体制をしっかりと作りました。この体制が困っている方にきちんと届くかどうかが重要なので、民生委員さんはじめ地域の方にもご協力いただきながら、困っている方に届くように努力していきたいと思っています。
まだまだ至らない点はあるかもしれませんが。不登校の話が出ましたが、今、新年度予算を編成しており、今後新たな施設ができます。高校生やその上の子も不登校の問題を抱えているので、これまで中学生までだったところを高校生以上、いろんな世代の困っている人たちに支援が行き届くよう、しっかりと成果を上げていきたいと思っています。
そのような意味では、この会議でのご意見はすごく重要なものかと思っています。改めまして、来年20周年を迎えますが、皆さんに住んで良かった、住み続けたいと思っただけのまちづくりを続けたいと思いますので、これからどうかご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます御礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

川俣課長：それでは閉会にあたり、全員で挨拶を行いたいと思います。皆様、ご起立ください。

(全員起立)

それでは、以上で令和6年度第5回下野市行政改革推進委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長 中村 祐司

署名委員 野田 善一

署名委員 柳 環 正弘